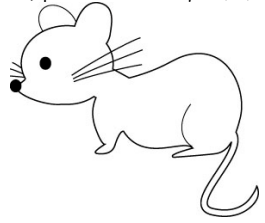


### 謹賀新年

今年は、ねずみ年です。ねずみを「子」として表します。ねずみは「頭が大きくて、手足がよなよとした乳児」をかたどった文字です。そこから転じて「子」がうまれたのです。「子」の字には、増えると言う意味があり、ねずみもたくさん子供を作るので「子」の文字をねずみにしたそうです。

よって、「子孫繁栄」の年になると言う考えが多いです。経済だけでなく世の中も盛り上がることでしょう。過去を振り返ってみると、過去のねずみ年にも様々に盛り上がった出来事がありました。一九七二年(昭和四十七年)は、札幌でアジア初の冬季オリンピックが開かれました。今年もオリンピックです。世の中は盛り上がるでしょうね。一九九六年(平成八年)は、アムラーファッションやルーズソックスが流行しました。今年には新しいファッションやエンタメで大きな流行があるといいですね。二〇〇八年(平成二十年)は、ノーベル賞に四人の日本人が選ばれました。今年もこの様な大きな嬉しいニュースを期待したいです。今年、経済・科学・社会全般で日本が繁栄の年になるといいですね。



### 忘己利他(もうこりた)

忘己利他は、「人生をあきらめる」という意味

ではありません。自分のことより、相手のことを思うことであります。つまり思いやりを持つてくださいと言うことです。

今の社会は、自分ことばかりです。とても悲しいです。なぜ、他人への思いやりを持ってないでしょうか。相手のことを気遣うことが、人生にとって最良の行いであります。

「情けは人の為ならず。」ということわざがあるように、人に親切にすればその相手のためになるだけでなく、やがては善い報いとなって、自分にもどってくるのです。

### ブツダの

### 小ばなし

### 「私の方が賢い」

髪の毛がない男がいました。この男が道を歩いていると、後ろから人が近づいてきました。後ろ人はナシの実を取り出しました。そして前の男の頭にナシの実をガツンとたたきつけて、逃げました。でもたまたかかれた男は後ろの人に何もせず、だまっていました。それを見た人が言いました。

「なんでにげなかつたのですか。頭が傷だらけですよ。」「あの人はものを知りません。きつと髪の毛がないのを見て、頭ではなく、石だと思ったから、ナシをぶつけたのです。ものを知らない人は困ったものだ。」「あの人はものを知っているかどうかわかり、自分が怪我をしないことの方が大事じゃないですか。」



ブツダの教え

自分の問題点を他人からいわれても、その相手を「ものを知らない」人だと思っていません。是は頭をたたかれても逃げようとせず、相手を愚か者呼ばわりした男に変わりがないということです。

### 老いに生きる

今。高島の高齢化は、急速に進んでいます。最近の調査によると、六十五歳以上は、三十二・一％つまり三割という現状です。あと十五年で十四・三％上昇し、四十六・四％に達しおおよそ十人に五人が高齢者となります。

佛教では、生老病死を四つの苦しみと説きますが、ここにきて「老」がにわか注目を浴びてきました。多くの人々の切実な問題です。老後を心配する人が増えています。

ましてや、老いに病気が加わりやすくと大変厄介です。「生」を生まれる苦しみにすると、「老病」は生きる苦しみです。誰しも美しく老いたいと願っています。それには生きる苦しみとどうつきあうかあります。死んでどうなるかを考えるより死ぬまでにどうしたらよいか考えるべきなのです。「死」は突然やってきますが、「老」は徐々にやってきます。そこが違いかもしれませんが、皆、一人残らず、その道を逃れることはできません。

人間は年を取りますと、自分の過去に対する採点が厳しいようです。「自分の人生は何だったのか?無意味だ・・・」などと。そこで真の評価をし、明日への生きる指針を与えるのが僧侶の使命なのです。老人の気持ちを理解出来るように学ぶことが大切なことです。与えられた生命。預かりものの借りもの生命を、本人の納得いく形で燃焼させることのできるアドバイザーでありたいと考えています。

### 朝夕のお参り



お仏壇は、家の寺です。心の安らぎを求めるところであります。人は、仏様に守られているのです。一般家庭でお仏壇を設けて礼拝するようになったのは、江戸時代の頃からですが、古くは千三百年前の古代天武天皇の頃です。「諸国家毎に仏舎を作り、即ち仏家及び経を置き、もって礼拝供養せよ。」と豪族や貴族を中心に仏壇を設けてきたのです。現在では、家の中心として仏壇をお祀りして、朝夕のお参りを家族と共にすることで、「家庭円満」、「家内安全」、そして精神的な家庭の和合が保たれ、幸せな生き方を目指すこととされているのであります。

### 念仏講の新年会。

日時 一月二十七日(月) 午前十一時  
場所 玉泉寺庫裏座敷  
※一月二十日までに連絡してね

### 法話会

ご希望の方には、本堂開けていますので、ご連絡ください。「玉泉寺住職日記」のブログを毎日更新しますのでご覧ください。

### びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、ご一報下さい。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九  
天台眞盛宗玉泉寺 木村 哲基  
電話 〇九〇―三七〇八―七二〇六  
FAX (〇七五) 五〇一―二二七九  
Eメール [svka37375@eto.eonet.ne.jp](mailto:svka37375@eto.eonet.ne.jp)  
新Eメール [info@gyokusenji.com](mailto:info@gyokusenji.com)  
ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」と「玉泉寺住職日記」をご覧ください。